

1 新潟市の概況

新潟市は、東京から北北西約250km、上越新幹線で約2時間の位置にあります。

日本海、信濃・阿賀野の両大河、福島潟、鳥屋野潟、ラムサール条約登録湿地である佐潟など、多くの水辺空間と自然に恵まれ、コハクチョウの越冬数は日本一を誇ります。

江戸時代から物流拠点「新潟湊」の機能を生かして賑わいを見せていた「新潟町」は、安政5（1858）年に、アメリカ・イギリスなど5か国との修好通商条約によって、函館・横浜・神戸・長崎とともに開港5港の一つに指定され、世界に開かれた港町として栄え、明治22年に市制を施行するなど発展を重ね、平成13年に黒埼町と、平成17年に近隣13市町村との合併（3月、新津市・白根市・豊栄市・小須戸町・横越町・亀田町・岩室村・西川町・味方村・潟東村・月潟村・中之口村の12市町村と合併、さらに10月には巻町と合併）により人口が約81万人となり、本州の日本海側最大の都市として大きく飛躍しました。

広域合併したことにより、歴史や文化財、郷土芸能、花や豊富な食材、豊かな自然など、さまざまな面でさらに魅力を加え、国際空港や港湾、新幹線、高速道路網などが整備された交通拠点であると同時に、国内最大の水田面積を持つ大農業都市でもあるという、他の都市には見られない特徴を兼ね備えることとなりました。

そして、平成19年4月には、高い都市機能と自然環境とが調和し共存する「田園型政令指定都市」、それぞれの地域の力を大切にして、市民と行政とが協働でまちづくりを進める「分権型政令指定都市」として、大きく羽ばたこうとしています。

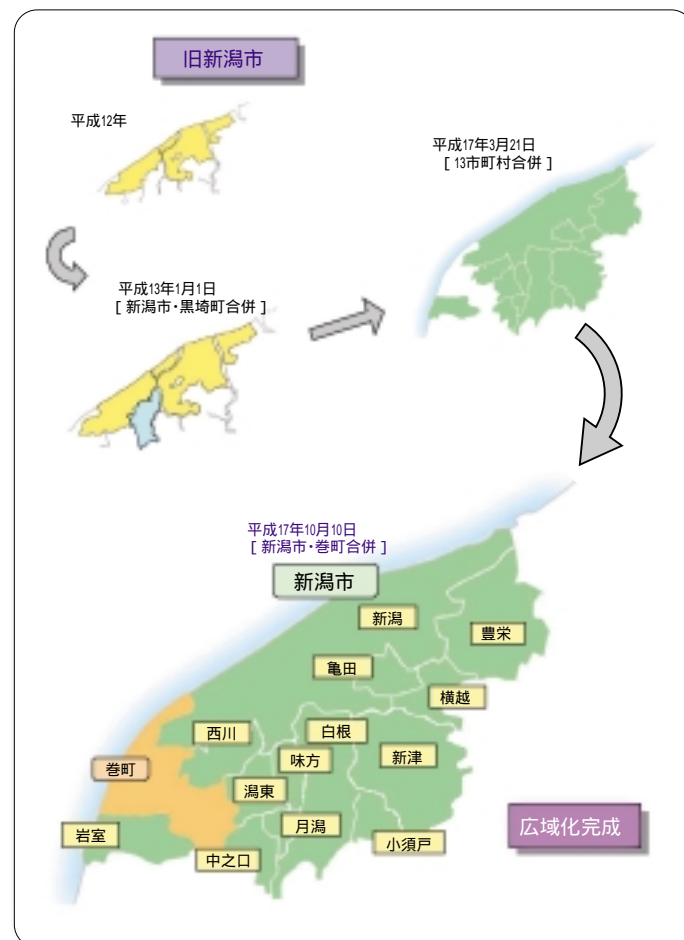
■新潟市の地勢

面積	726.10平方キロメートル
広がり	東西 42.4キロメートル 南北 34.9キロメートル
位置	極東:東経 139度 16分00秒 極西:東経 138度 47分03秒 極南:北緯 37度 40分45秒 極北:北緯 37度 59分36秒

■新潟市の人口

(H18.10末 住民基本台帳人口・世帯数)

総人口	805,333人
男	388,750人
女	416,583人
世帯数	299,483世帯



2 水道事業のあゆみ

本市の水道事業は明治43年、信濃川を水源として、計画給水人口65,000人の規模を有する全国14番目の市営水道として創設しました。

大正3年、沼垂町との合併に伴う市域の拡大や急速な都市化の進行に伴い、水需要は拡大の一途をたどり、昭和3年からの第1回拡張事業では、計画給水人口を115,000人に設定し、青山浄水所（現青山浄水場）の新設など、浄水能力の増大に努めました。

その後、戦時下の資材難や戦後のインフレに伴う財政難に見舞われるなどの幾多の困難を乗り越え、昭和20年代には増え続ける水需要への対応を目的に、取水施設と浄水施設の改良を主要計画とした第2回拡張事業を、昭和30年代には近隣町村との合併に伴う水需要の大幅な増加への対応を図るため、計画給水人口245,000人、計画1日最大給水量100,000m³/日とした第3回拡張事業を実施しました。



給水量300,000m³/日とした第4回拡張事業に着手しました。

この時代は、新潟大火や地盤沈下、新潟地震の発生など大規模な災害が相次いだ時代でもありました。特に昭和39年に起こった新潟地震では、水道施設にも甚大な被害が及び、一時拡張工事の中断を余儀なくされました。しかし、配水管網のブロック化など、震災から得た教訓をただちに事業化することにより、今日に至る安定給水の確保に道筋をつける施策展開が図られた時代でもありました。

こうして第4回拡張事業が着実に進行する一方、昭和40年代以降は、簡易水道事業の給水区域を本市の給水区域に取り込むなど、給水区域の拡張事業を推進しました。

